日本ウイスキー watching in PARIS in 2023

パリ

+ CDG/PARIS + KIX/OSAKA + more in TOKYO

- 2023年５月にパリのジャパニーズウイスキー小売りの現場を観察した記録。
- 専門店のほか、デパート、シャルルドゴール空港の状況も収載。
- あわせて、関空と東京お台場のお店も収載。

「LMDW Anjou」（メゾン・ド・ウイスキー、アンジュー店）

- La Maison du Whiskyは日本ウイスキーをフランスにひろめた会社。パリに2店舗あるうち、これはRue d'Anjouの本店。
- 前回はコロナ前の2018年に来ているが、その後に日本でクラフトウイスキーが続々開業したので、日本ウイスキーの扱い銘柄数は増えている。
- LMDWはニッカとの関係が深いので、サントリーよりニッカのほうが手の届きやすいところに並ぶ。

次ページに続く

All pictures of this report are taken by 2neo on site.

SHOP in Paris
「メゾン・デュ・ウイスキー」

日本ウイスキー watching in PARIS（パリ） in 2023

- 代表的なジャパニーズウイスキーブランド3つの価格を確認。2021年から円安が進んで、パリを訪問した2023年5月現在、1€=150円程度。このレートで換算すれば、下の3ブランドは、132€＝約2万円～209€＝約3万1,000円となる。
- 比較のために上の写真のニッカの価格を記すと：余市シングルモルト79€、竹鶴89€、カフェモルト63€など。

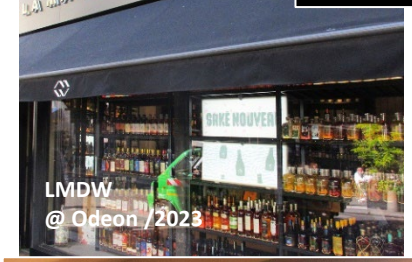
SHOP in Paris
「メゾン・デュ・ウイスキー」

（参考）イチローズモルトの「カードシリーズ」は極めて高額で取引される。全54本のセットが、2019年の香港のオークションで720万HK$（当時のレートで約1億円）で落札され、話題になった。

（参考）上の写真は、『かつてアイラ島に存在した「ポートエレン」』のヴィンテージもの。残存本数は少なく、きわめて高価。
『かつて日本に存在した「軽井沢」』も（壜詰め元が軽井沢蒸溜所（メルシャン）ではないとはいえ）、愛好家にとってポートエレンと似た位置づけになっているのかもしれない。
ポートエレン蒸溜所は元の場所で再開するそう。日本でも新しく軽井沢ウイスキーが設立されているが、これは昔の軽井沢蒸溜所の方が工場長を務めるそうだが、ブランド上は関係がない、、、。日本はなかなかややこしい。。。後述する「富士」と「富士山」の例もしかり。

SHOP in Paris
「メゾン・デュ・ウイスキー」

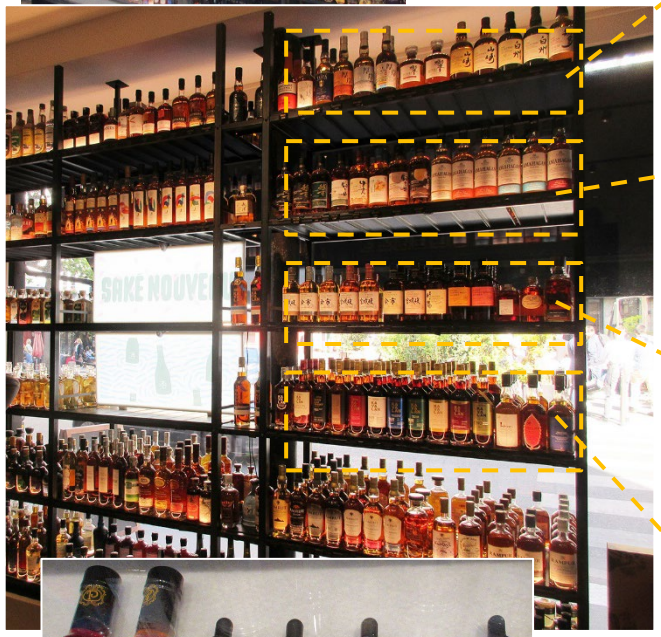
LMDW



LMDW
@ Odeon /2023

「LMDW Odeon」（メゾン・ド・ウイスキー、オデオン店）

- フランスのウイスキー人気の高まりに乗って2010年に開業したLMDW2番目のお店。元は花屋さんだった場所。
- 開業当初の2010年から定点観測をしている。初めて来たときはニッカ、サントリー、イチローズモルト、軽井沢の4種だったが、今や日本ウイスキーの銘柄は10くらいに増えている。
- オデオン店は日本酒もおいているが、それは別レポートで紹介。



（写真上）上の小びんは、カクテルのビターズ（味付け用リキュール）。「旨味」「紫蘇」「柚子」のラベルは日本製。
（写真右）台湾のKAVALANは、いろいろなお店で日本ウイスキーとセットで並べてある。存在感を高めている。

LE BON MARCHÉ
RIVE GAUCHE

WHISKY JAPONAIS

パリのデパート「ボン・マルシェ」

- 左岸の「ボンマルシェ」は伝統ある高級デパート。お酒売り場はとても充実している。ワインやウイスキーなどを中心に、日本の一般的なデパートの酒売り場の4－5倍の売り場面積。
- 「日本ウイスキー」の棚もある。サントリー・ニッカ以外に、いくつかの日本銘柄が並ぶ。
- ここではサントリー・ニッカ以外のブランドにキャプションをつけて掲載。価格は、セントの単位は判読できないものもあるので切り捨てて、ユーロ単位で記載。
- Japanese Sakéの売り場は別レポート参照。

CDG（シャルルドゴール空港）免税店のJapanese Whisky

- CDGのお酒の免税店には、かつては（15年ほど前までは）スコッチやバーボンはあっても、日本のウイスキーなどもちろんなかった。ところが日本ウイスキーの世界的評価が高まるにつれ、2010年ごろからサントリーやニッカが並びはじめ、近年はサントリー・ニッカ以外にも数銘柄のジャパニーズウイスキーが並ぶ。
- 今や日本ウイスキーだけで1つのコーナーができるようになった。左の紫点線枠写真2枚はCDGのサテライトK・ターミナル2Eの免税店の日本ウイスキーコーナーの裏と表。表示は「WHISKY DU MONDE＝世界のウイスキー」となっているが、このコーナーはほぼすべて日本製品。
- 2023年5月時点で販売されている銘柄を、価格が読めるような拡大写真で紹介します。価格表示は、左が参考市場価格、右がこの店の免税価格。（セントの単位は判読できないので切り捨てて記載）
- 日本酒の「美寺都」が並んでいるが、それについてはSakéに関する別レポートにて。

WHISKY DU MONDE

CDG PARIS AÉROPORT

おまけ情報①
関空にて

KIX Kansai International Airport

KIX（関空）の免税店にて

- 日本の免税店のお酒売り場では日本ウイスキーが一番人気。サントリー・ニッカ以外にも、多くの銘柄が並ぶようになった。紫点線枠の写真3枚は、2023年5月に関空から出国時に撮った、南ウイング側の免税店2店のウイスキーの棚。2023年4月の出国時にも同じ店を見たが、わずか1カ月の間に取り扱い銘柄が増えている。
- 日本国内のウイスキーのシェアは「サントリー41.2％、ニッカ34.3％、宝4.9％、キリン1.9％、その他17.7％」（2022年実績、酒類統計月報2023年6月号）だそうだが、この売り場を見ると、あたかも「サントリー・ニッカ以外のシェアが過半」状態のよう。
- ここでは、サントリー・ニッカ以外を拡大写真で紹介。価格は安価なものから高価なものまで。もちろん、「日本ウイスキー規格に該当しない商品」が多数で、 玉石混交状態。購入者の多くは中国人ツーリストである。
- なお、いまやサントリー・ニッカと並んで日本を代表するベンチャーウイスキーは販売されていない。（前ページのCDGにもなかった。）「富士」（キリン）はKIXになくてCDGにあった。「富士山」（ミレックスジャパン）はKIXにあってCDGにない。

おまけ情報①
関空にて

KIX Kansai International Airport

（参考）スコッチのシーバスリーガルは日本の「ミズナラ」樽貯蔵にチカラを入れている。日本国内のパッケージは「水楢」と漢字表記だが、これは免税店限定商品で（日本人にはちょっと読みにくい書き方で）「ミズナラ」とカタカナ表記。
中国人ツーリストがターゲットなので、左のボードは「日本水楢木苏格兰经典新调和不凡匠心」「芝华士（シーバス）水楢桶（ミズナラ樽）」と中国語表記。
因みに価格は¥13,900。

おまけ情報②
お台場にて

東京お台場の「The Vintage Stock Tokyo」にて

- 2022年11月に開業したお店。日本ウイスキーのヴィンテージものを中心に品ぞろえ。場所は台場ヒルトンホテルの横。主要顧客は中国人ツーリストだと思う。これは2023年6月撮影の写真。目を引く高額の価格をキャプションで追記表示しました。
- 日本ではブランド品買取店でウイスキーを買い取るのが定着したので供給は豊富なのかもしれないが、驚くべき品揃え。（パリのLMDWのマニアックさには及ばないが。）

- 日本では店内で商品写真をとらせないことが多いが、このお店では撮影OKのよう。たくさんの海外からの旅行者が値段を撮影したり記念写真を撮ったりしていた。
- フレンチワインやスコッチの年代物もある。冷蔵リーチインには日本酒の「十四代」。

(end of report)